

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2年 7月 2日

和歌山県知事 殿

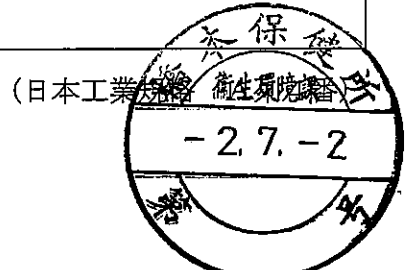
提出者
 住 所 和歌山県伊都郡かつらぎ町東渋田585
 氏 名 紀州食品株式会社
 代表取締役会長兼社長 堀口 紀美夫
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
 電話番号 0736-22-1041

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	紀州食品株式会社
事業場の所在地	和歌山県伊都郡かつらぎ町東渋田585
計画期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	09 食品製造業		
② 事業の規模	資本金 4880万		
③ 従業員数	70人		
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	農産加工物	動植物性残渣 木くず(廃パレット等) 廃プラスチック類 ガラスくず等 脱水汚泥	保管 保管 保管 保管 保管 全量委託処分 全量委託処分 全量委託処分 全量委託処分 全量委託処分



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)		
統括責任者		武井 正雄 工場長
職場責任者 現場担当者		河合 寛昭 公害対策担当
役割	統括責任者	産業廃棄物の発生状況の把握と関係法令に基づく管理体制の推進
	職場責任者 現場担当者	委託契約の締結 処理業者の現場確認 産業廃棄物の取り扱い手順等の策定 帳簿作成 マニフェストの交付 産業廃棄物処理法及び関係法令に基づく作業の推進 産業廃棄物の分別保管管理

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（平成31年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	ガラスくず	廃プラスチック類	紙くず
	排出量	4 0 0 t	6 1 2 t	1 t	1 3 t	1 t
	(これまでに実施した取組) 製品製造時に発生するみかんの外皮を材料とした商品化を行い、工場内での発生汚水を抑制することによる脱水汚泥の減量と含水率の低下を進めるべく脱水機の運転管理の改善、原料入荷、受注により大きく左右されるため前年度の受注高、生産高をもとに廃棄物種類別に排出量の予測をする。					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	ガラスくず	廃プラスチック類	紙くず
	排出量	10 00 t	450 t	2 t	20 t	3 t
	(今後実施する予定の取組) これまでの取り組みを継続する他、生産ラインの見直しと加工技術、機械設備の改善により原料利用率の向上を図り廃棄物の減量化に取り組む					

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 汚泥・動植物性残渣・紙くず・ガラスくず・廃プラスチック類ごとに専用のコンテナなどに入れて、それぞれに内容物の表記や中身の確認ができるようにしている
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) これまでの取り組みを継続し、さらに従業員への教育、啓発等により周知徹底を致し適正に廃棄物を取り扱う仕組みを設ける

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 自ら再生利用は行わない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 自ら再生利用は行わない		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組) 自ら中間処理は行わない			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		

	自ら熟回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 自ら中間処理は行わない		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 自ら埋め立て、海洋投棄は行わない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 自ら埋め立て、海洋投棄は行わない		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項						
① 現状	【前年度（31年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物 性残渣	ガラス くず	廃 プ ラ ス チ ッ ク類	紙 く ず
	全処理委託量	400 t	612 t	1t	13 t	1t
	優良認定処理業者への 処理委託量	400 t	t		10 t	t
	再生利用業者への 処理委託量		612 t	1t	3t	1t
	認定熟回収業者への 処理委託量		t			t

	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
<p>(これまでに実施した取組) 委託業者と委託契約を締結するにあたっては、現地確認を行い委託後の処理状況においても定期的に確認を行う</p>			

(第5面)

②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物 性残渣	ガラス くず	廃 プ ラ ス チ ッ ク類	紙 く ず
	全処理委託量	1000 t	450 t	2 t	20 t	3 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	1000 t		t	18 t	t
	再生利用業者への 処理委託量		450 t	2 t	2 t	3 t
	認定熱回収業者への 処理委託量			t		t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量			t		t
<p>(今後実施する予定の取組) みかん外皮の商品化を上げる他これまでの取り組みを継続する 委託処理業者との連絡等を密に行い、委託先の情報収集する他今後の 業者選択においても優良産業廃棄物処理業者に関する情報を活用す る。 ただし、業務の増加が予想されるため、廃棄物の発生量は増加の傾向 にある。</p>						
※事務処理欄						